

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

2026

Winter

世界一周、出会い一生

第二特集 世界の美港10選

巻末：2026年カレンダー

[発行](株)ジャパングレイス



ピースボートクルーズは

出会いの宝庫



Encounters await

パシフィック・ワールド号に乗り込んだその日から、すべての出会いが始まります。寄港地でもたらされる感動、新たな価値観とのめぐりあい、講座や船内企画での語らいから生まれる発見、船上での交流を通して育まれる友情。ピースボートのクルーズは、出会いの舞台であり、そのすべてが、人生を豊かに彩るかけがえのない物語となっています。

GLOBAL VOYAGE 2026 Winter

CONTENTS

特集

ピースボートクルーズは

—— 出会いの宝庫 P3

—— 感動との出会い P4

—— 知識との出会い P6

—— 趣味との出会い P7

—— 友人との出会い P8

—— 水先案内人からのお便り P9

第二特集

—— 世界の美港10選 P10

—— PEACE BOAT ACTIVITIES P12

—— 2026年カレンダー P14

表紙の写真

パシフィック・ワールド号のデッキは洋上からの絶景を眺める場であると同時に社交の場でもあり、世代を越えた出会い、交流が生まれている。





歴史と文化が息づく世界遺産

長い歴史と人類の英知が詰まった、世界遺産。石造りの遺跡、荘厳な教会、文化が刻まれた街並み。その佇まいには、言葉を越えた感動があります。世界遺産が語りかけてくるメッセージにふれるとき、あなたのイマジネーションも解放されるでしょう。



Passenger comments

絵本の中に入った ような景色に感動

松本紀子さん

緑の溪谷に小さな家々が並ぶ
ソグネフィヨルドで登山列車に
乗車。夢見心地に進むと、滝の
前に妖精を見つけました!まるで
絵本の世界に迷い込んだかの
ようで、風や水の音、光のきらめ
きまですべてが特別。心が躍る、
忘れられない旅の瞬間でした。



海洋動物との遭遇

海上から突如現れるクジラの尾びれ、そして豪快な水しぶき。悠然と泳ぐイルカの群れ。デッキから思わず歓声が上がり、クルーズに特別なひとときが訪れます。旅人を歓迎するかのような海洋動物の姿からは、人間にはうかがい知れぬ生命のドラマも感じることができます。



感動との出会い

An encounter with emotion

旅の先々で出会う、心揺さぶられる瞬間。デッキから望む氷河の輝き、寄港地で出会う大自然のダイナミズム、悠久の歴史を感じる世界遺産。地球一周の航海は、感動の連続。ピースボートクルーズは、旅を通じて未知の体験に満ちあふれています。忘れられない風景が、あなたを待っています。



圧倒されるフィヨルドの雄大さ

フィヨルドを進む船旅は、まるで絵画の中を漂うようです。そびえ立つ岩肌、水面に映る青空、自然が織りなす圧巻の風景。船上からその全貌を望むことができるのはクルーズならではの特権です。圧倒的なスケール感と造形美に、ただただ息をのみ感嘆する時間が静かに過ぎていきます。





趣味との出会い

Discovering a hobby

船上という特別な空間で、長年気になっていたカルチャースクールに入ってみる。また友人に誘われて習い事にチャレンジする。たとえば水彩画の筆を握る、ダンスステップを踏む、趣味という自分との対話が世界一周での新しい出会いとなり、人生の彩りをいっそう豊かなものしてくれます。

Passenger comments

思わぬ
“ハマりごと”
に出会いました

児玉和美さん

気になっていたフラダンスとズンバに船上で挑戦したところ、思わぬほど夢中に。勢いで発表会にも参加し、その達成感がさらに火をつけました。帰国後もフラを続けるほど“好き”が深まるなんて想像もせず。旅が新しい楽しみを運んでくれました。



新たに始めた 趣味が旅の友になる

船上のカルチャースクールでは「初めて挑戦してみた」という声をよく聞きます。ヨガやノルディックウォーキングなど体を動かすプログラムや水彩画教室、英会話教室など芸術、語学系も揃っています。気に入って継続し、クルーズの期間中、旅の友として趣味を堪能する姿が多く見られます。



知識との出会い

Encountering interests

各界の専門家たちによる講義、寄港地の文化や歴史などにふれるワークショップ、舞台上で披露される多彩なパフォーマンス。ピースボートの船上は「知る喜び」に満ちています。参加者に新たな視点をもたらし、豊かな知見を刻み、旅の魅力をさらに広げます。



世界をフィールドにした知識の航海

船の旅を舞台に語られる地球環境、世界遺産の真実、平和のための対話など、多彩なテーマの講座が開かれます。好奇心がふくらみ、今まで知らなかったことでディスカッションするような機会も生まれます。それは今までとは違う、新しい自分を発見するきっかけにもなるのです。



Passenger comments

憧れの
著者と
会えました

込山哲史さん・真由美さん

愛読していた小説の著者・海堂尊先生が乗船し、直接お会いできて感激しました。講演会も毎回楽しく、日本ではなかなか味わえない距離感で交流できたのも船旅ならではの。食事をご一緒したり、すれ違いざまに挨拶を交わしたり、特別な時間が広がりました。



一期一会の豪華パフォーマンスに酔う

夜の船内ステージでは和太鼓が鳴り、民族舞踊が演じられ、世界各国の伝統楽器の音色が響くなど様々なパフォーマンスが披露されます。華やかで美しい各国の一流の芸は、世界を開く扉ともつながっています。



友人との出会い

Meeting friends

船上で交わした「はじめまして」がやがて「また会いましょう」に変わり、仲間になっていきます。年齢や職業はもちろん様々な人生の背景を持つ人々が、船旅の様々なシーンで出会い、語り合い、笑い合う。そこで生まれた友情は航海後も色あせず、人生の宝物になっていきます。



Passenger comments

船を降りても 継続する 旅仲間との出会い

柳澤和夫さん

下船時に仲間と100人以上のLINEグループをつくり、今も交流が続いています。各地でプチ同窓会が開かれ、自分はオンラインで心と体の健康についての企画を継続中。旅は終わっても楽しさは続いています。

航海で育まれる、生涯の友情

ピースボートクルーズの魅力について「人との出会い」を挙げる人は少なくありません。隣り合わせた席での会話、イベントで力を合わせた連帯感、同じ趣味を持つ者同士の共感、そんなきっかけが旅を通して絆として深まっています。各国を訪れた旅の思い出とともに「生涯の友に出会えたことも最高の出来事」になります。



クルーズディレクター
田村美和子

2010年にクルーズディレクターに就任以降、20回以上のディレクターを務める。エンターテイナーとして洋上カルチャースクールのサルサダンス講師の一面も持つ。

出会いと感動が待つ
ピースボートクルーズを
ぜひ体感してください。

先日、船内で社交ダンスを楽しんでいた皆さまの同窓会にお招きいただきました。そこには同じクルーズに乗船された方だけでなく、クルーズを越えて多くの方が集まり、初対面の方とも自然に会話が広がりました。ピースボートの旅で生まれたご縁が、さらに新たなつながりを育んでいることを改めて実感して感動いたしました。

現在は乗船者の約3割が海外から参加される方なので、この輪は国境を越えてどんどん広がっています。リアルな人の温かみに触れる時間は、インターネットでは決して味わえない特別な体験であり、下船後も人生を二生彩るエッセンスとなります。どうぞ、あなたの未来を拓く航海を心ゆくまでご体感ください。

水先案内人からのお便り

Voyage121クルーズで世界一周の航海を無事に終えた水先案内人の高橋和夫さんより、当時乗船中に届いたお便りをご紹介します。



高橋 和夫さん
TAKAHASHI Kazuo
(国際政治学者、
放送大学名誉教授)

世界情勢をわかりやすい言葉で話してくれる国際政治学者で、解説者として数多くのテレビ番組に出演。また世界の複雑な問題を鋭く、かつ分かりやすく解説してくれる講座は、毎クルーズ人気が高い。著書に『モデルナとファイザー、またはバイオンテック』(GIEST)、『なぜガザは戦場となるのか』(ワニブックス)、『パレスチナ問題の展開』(左右社)、『アラブとイスラエル』(講談社新書)『イランとアメリカ、そしてイスラエル』(朝日新聞社、近刊予定)など。

高橋和夫の中東・イスラム・国際情報
<https://news.yahoo.co.jp/expert/authors/takahashikazuo>
X (旧ツイッター)
<https://twitter.com/kazuotakahashi>
YouTube チャンネル「高橋和夫&小沢知裕ルーム」
<https://www.youtube.com/@GIESTInstitute>

『船旅のだいご味は船上生活にある。寄港地を訪れる楽しいに負けないほどだ』

まず船の外で展開される風景に圧倒される。船では日昇と日没という一日に2度のドラマに巡りあう機会がある。寝過ごすと、ひどく損をしたような気がする。そして大きな雲、水平線、海の色の変化が見える。しかも航行中のVoyage121クルーズでは、オーロラに出会った。

奥と呼ばれる超高層ビル街の全景を見渡すなど船以外からは難しいだろう。出港時の島全体が輝くマンハッタンのは、景は圧巻だ。そして、人工と自然の融合した風景がパナマ運河だ。熱帯雨林を貫く人工の水路に目を見張る。自然と人工の風景は素晴らしい。だが、もっと興味深いのは船内での出会いだろう。全国から集まった日本人が交わる。それに東アジア、そして東南アジアの乗客が加わる。

このクルーズでは、私自身もエジプト人の講師から、最新の中東情勢について

の微妙なニュアンスを教えられた。現地の手触りが伝わるような語りだった。船で得た新たな知見を帰国後の講演やメディア出演の際に披露しようと思っている。

筆者は講師としてお話をさせていただきながら、船外に展開される自然と人工の風景と船内で繰り広げられる人間模様、目を見張りながら航海を続けている。

航海のだいご味は、この人間模様の一部となることだろうか。さまざまな出会いと再会がある。私自身も、かつて中学と高校の同級生に再会した。

また大学の親友の父親に出会った。今夜も出身地の福岡県民の会に出席する。なにか自分の故郷と一緒に世界を回っているような懐かしさと温かさが漂う。ピースボートの旅は、世界を回りながら同時に故郷の九州に帰るような不思議な体験だ。

船上生活のだいごみの話をしてきた。ちなみに「だいごみ」は漢字で書けば醍醐味だ。梵語(サンスクリット語)で書かれた仏典の漢訳が語源だ。本来の意味は乳製品の中の最上のものだ。このような、他では聞けそうもない解説を含め、各国から乗船した豪華な講師陣の話を聞ける。通訳が入るので、しかも日本語で大丈夫だ。講師の方々は、いずれも話上手で、語り部という言葉がふさわしい。





Rio de Janeiro／Brazil

リオデジャネイロ [ブラジル]

コルコバードの丘やポン・ジ・アスーカル岩の岩山がそびえ立ち、海と山、街が織りなす風景が圧巻。世界でも有数の美港にふさわしい壮麗な景観が広がります。



Vancouver／Canada

バンクーバー [カナダ]

背後に広がる雪をいただく山々と、港に映る高層ビル群。自然と都市が溶け合う調和がこの港ならではの特徵で、訪れる者に静かな感動を与えてくれます。



Valletta／Malta

バレッタ [マルタ共和国]

地中海の陽光に照らされる黄金色の城塞都市。旧市街全体が世界遺産に登録されており、石造りの絶壁が立ち並び美しく歴史を感じさせる港です。



Istanbul／Türkiye

イスタンブール [トルコ]

モスクの尖塔が並ぶ景色と、ボスポラス海峡を行き交う船のシルエット。アジアとヨーロッパを結び、東西文化が交差する、幻想的な港の風景が広がります。



Valparaíso／Chile

バルパライソ [チリ]

カラフルな家々が丘の斜面を彩るアートな街並み。世界遺産にも登録される坂の街。港から見上げる風景は、詩情に満ちた南米の文化拠点です。



Cape Town／South Africa

ケープタウン [南アフリカ共和国]

海に迫るテーブルマウンテンの雄大な山容と広がる湾。大自然のスケールと美しさを肌で感じる、南アフリカ随一の観光地にふさわしい港です。



Beautiful Ports of the World

世界的美港10選

世界には「景色そのものが主役」となるような港があります。色彩豊かな町並みを一望できる港、雄大な自然と溶け合うフィヨルドの湾、歴史が刻まれた石畳の港町。今回ご紹介するのは、ピースボートが実際に寄港する、選りすぐりの美しい港10選。唯一無二の眺望はもちろん、その土地ならではの息づかいや文化が感じられる、記憶に残る港ばかりです。



Lisbon／Portugal

リスボン [ポルトガル]

大航海時代、帆船が新航路へ旅立ったテージョ川河口の港。赤い屋根の街並みと歴史的建造物が海辺を彩り、旅人の旅情をかきたててくれます。



Ushuaia／Argentina

ウシュアイア [アルゼンチン]

南米大陸最南端に位置する港町。雪山と氷河が包み込む入江は、極地ならではの神秘的な静けさと、圧倒的な自然美が眼前に迫り、冒険の香りに満ちています。



Bergen／Norway

ベルゲン [ノルウェー]

カラフルな木造倉庫が連なるブリッゲン地区と静かなフィヨルドの対比が美しい北欧の港町。しっとりとした風情ある景色が心に深く残ります。



New York／USA

ニューヨーク [アメリカ合衆国]

自由の女神が佇む湾を抜けると、摩天楼がそびえる世界の中心都市へ。海から眺める圧倒的スケールの景観は、忘れられない入港体験として心に刻まれます。

安全な暮らし、笑顔を 一日も早く取り戻すために

9月末の地震被害に対する 支援を開始

2025年9月30日、フィリピン中部・セブ島沖でマグニチュード6.9の地震が発生。北部を中心に甚大な被害が出ました。多くの建物が倒壊または損壊し、多数の住民が避難所やテントでの生活を余儀なくされました。特にメダリン市やボゴ市などでは「揺れの恐怖で家に戻れない」「屋根を失い、豚小屋で夜を過ごすしかない」といった声が上がするなど、生活基盤の喪失が顕著でした。PBVは10月6日にスタッフを派遣し、被災状況の確認と共に現地パートナー

団体とテント設置など支援活動を開始しました。

11月の大型台風による被害 拡大にも迅速対応

この地震からの復旧が道半ばだった11月4日、今度は大型台風25号（カルマエギ）がセブ島に上陸。豪雨による洪水、土砂崩れが広範囲で発生し、セブ州だけで少なくとも100名以上の犠牲と、40万人超の避難者が報告されました。被災規模は甚大で、市街地の広範囲な水没や多数の家屋流出・破損、土砂の堆積など、地震被害の回復を阻

現地における多面的支援を 展開中

11月12日～16日には日本からスタッフを再派遣し、現地パートナー団体と合同で地震被災地に安全な水を届ける給水支援や、衛生用品・家屋修繕キットの配布などを実施しました。たとえ

ば北部メダリン市では現地団体と連携して浄水器の設置を進め、市職員への使用方法のレクチャーを実践。台風により大きな被害を受けた中部タリサイ市では、設置した浄水器の水を用いて避難所に炊き出しが提供されています。このほか、調査の結果、家屋損壊の被害が大きい地域にて、生活再建に向けた家屋修繕キットの提供を強化するなど、多面的かつ効果的な支援を続けています。

日常を取り戻すため 引き続き支援を継続

今回、地震と台風によってフィリピンでは多くの方が厳しい状況に置かれています。しかし現地では不安な毎日を送るなかでも、支援に対して笑顔を向けて「日本からわざわざきてくれてありがとう」という言葉を送ってくれることもあります。皆さまのPBVへのお力添えによって現地で必要な支援を届けられたことに感謝申し上げます。PBVでは引き続き現地パートナーとともに家屋修繕の支援活動を行っていきます。現地の人々が安全な暮らしを取り戻せるよう、皆さまのあたたかいご支援・ご協力をお願いいたします。

フィリピン台風・地震 PBV活動報告

2025年9月末、セブ島沖でM6.9の地震が発生。11月には大型台風25号に続き、台風26号も襲来しました。セブ州では市街地の水没、住宅の流失、数十万人の避難者という深刻な状況が生まれました。ピースボート災害支援センター(PBV)は現地パートナー団体と連携し被災状況の調査、給水支援、物資配布、家屋修繕支援に迅速に取り組み、被災者の命と生活を守るためのサポートを展開しています。

む厳しい状況に直面しました。こうした複合災害の深刻さを受け、PBVは、現地支援体制の強化を決定しました。



PBV ピースボート
災害支援センター

【オフィシャルサイト】 <https://pbv.or.jp/>

ご支援のお願い

2025年 フィリピン台風・地震 緊急支援募金

現地の人々が安全な暮らしと笑顔を1日でも早く取り戻せるよう、皆さまのあたたかいご支援をお願いいたします。皆さまからのご寄付は、被災された方たちの生活再建のために、家屋修繕などの支援活動に活用させていただきます。

寄付方法

- 郵便振替 ●銀行振込
- クレジットカード
- yahoo!ネット募金





横浜(日本) ホテルニューグランド (横浜)より撮影

1 January 2026	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

2 February 2026	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28

3 March 2026	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

4 April 2026	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

世界一周クルーズで憧れのあの場所へ

草花が芽吹き、太陽が輝く初夏の北欧へ。中世の面影を残した優美な街並みや、カラフルな港の風景、「北欧デザイン」との出会いも楽しみです。



未だ謎多き文明の足跡をたどり、ミステリアスな遺跡群を訪ねる旅。歴史のロマンと街角の喧騒が渾然一体となって迎える、魅惑のアラビヤ世界へ。



陽光が照らす西ヨーロッパの街では、心躍る街歩きを。歴史を重ねた旧市街、石畳の坂道や広場、教会の塔など美しい撮影スポットが満載です。



静寂の中を進む船の前に現れる巨大な氷河や流氷群——雄大なフイヨルドを舞台に、"ラスト・フロンド"ニアアラスカの醍醐味を全身で感じます。





リスボン（ポルトガル）

5 May 2026							
	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24 31	25	26	27	28	29	30

6 June 2026							
	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				

7 July 2026							
	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

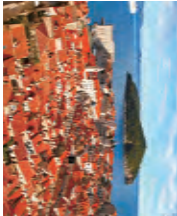
8 August 2026							
	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23 30	24 31	25	26	27	28	29

世界一周クルーズで憧れのあの場所へ

カリブ海の波音が誘う楽園への旅路。ビーチでリラックスも、叡智がつまった古代遺跡探訪も。楽しみ方いろいろ、珠玉のリゾート時間が待っています。



色彩のコントラストがまばゆいアドリア海の街。美しい入港シーンを経て石畳の街へと降り立てば、城壁に守られた世界遺産が輝きを放ちます。



アンデスの急峻な山々に抱かれた、世界遺産・マチュピチュ遺跡。謎多き遺跡から見て取れる高度な文明の跡は、歴史のロマンそのものです。



紺碧の海に覆われた“絶海の孤島”イースター島。謎を秘め竹むモアイ像や未解読の古代文字など、島全体がミステリアスな雰囲気を感じています。





フーケレイリ(アイスランド)

9

September

2026

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

10

October

2026

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11

November

2026

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12

December

2026

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

世界一周クルーズで憧れのあの場所へ

果てしなく広がる雪と氷の世界、南極。太古の地球の姿を今も残す白い大地には、私たちの想像を凌駕する絶景の数々が待ち受けています。



タヒチ島。その名前だけで世界中の人びとに夢を見させるポリネシアの楽園には、伝統的な暮らしからリゾートまで多様な表情があふれています。



彼方までのびる地平線と、大自然を舞台に躍動する命。アフリカの地に待つダイナミックな光景は、地球という星の持つ豊かさを教えてくれます。



エネルギーッシュな人びとが放つ陽気、街を美しく染め上げる南米の国々、ドラマチックな景観に鮮やかな色彩、あふれるリズムに心躍らせて。



船上百景 [南半球で迎えるお正月]



吹き抜けのアトリウムの華やかな正月飾りが新年気分を盛り上げる。

南半球の海に 新年の乾杯が響き渡ります

南半球航路のクルーズは、日本と季節が逆になるため、真夏のクリスマスやお正月を洋上で体験できます。大晦日に歌合戦イベントが賑やかに開催され、その後デッキでカウントダウンパーティが行われます。そして夜明け、さえぎるものもない水平線から昇ってくる朝日が、夏の季節のなかで迎える新しい年の幕開けを知らせてくれます。

船内はあでやかな飾りで彩られ正月ムード一色に。和装や各国の伝統衣装をまとった参加者たちが、鏡開きや書初め、福笑いなど日本のお正月を楽しみます。南半球の穏やかな海を背景に、さまざまな国・地域から集まった人々が笑顔で杯を重ねる楽しいひとときは、クルーズ参加者同士の友情も深め、温かな思い出として心に刻まれます。



参加者の願いのこもった絵馬の数々。



デッキでは恒例の鏡開きで乾杯。

「旅とは、人と人との出会い」とよく言われます。しかしその出会いは、必ずしも流暢な言葉が必要としません。

先日、デフリンピックの映像を見て、ふと20年ほど前のクルーズを思い出しました。聴覚に障がいのある方が乗船されていたため、まわりの方々が自然に手話を覚え、船内のあちこちで手の会話の輪が広がりました。音の壁が取り払われた瞬間です。そこにあつたのは、言葉がなくても心が通うという感動的な光景でした。手の動きや目の輝き、そして笑顔ひとつで伝わる「つながりの美しさ」。便利な翻訳アプリが普及した現代だからこそ、本当に人を近づけるのは、温かなまなざしや、互いを思いやる仕草なのだと改めて感じます。

古くから「顔は心の鏡」と言われます。先日下船されたばかりのお客様のいきいきとした表情を拝見し、その通りだと感じました。心の奥底から楽しめた旅の様子が、その笑顔から鮮やかに伝わるばかりです。本年も、皆さまの心を豊かにする船旅の魅力をお伝えしてまいります。そして、言葉を超えて心が通い合うような、温もりが伝わる旅の価値を、船という舞台から発信し続けてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。（長谷川・編集部）

